

連携リーダー

【組合の概要】

アイ・ティー・関東事業協同組合は、IT機器を活用した貨物利用運送事業の実施を主たる目的として平成15年12月に設立された。以来、貨物利用運送事業、運送事業に関する情報システムの開発研究事業、共同購買事業、ETCコーポレートカードの共同利用事業と併せて順調に取扱額を伸ばしている。設立当初5名であった組合員も現在18名に増えて地区も拡大し情報システムの開発事業が年を追って充実してきている。より効率的なネットワークシステム稼動に向け更なる新規組合員募集中である。

【理事長会社概要】

大栄陸運株式会社は、一般貨物自動車運送業、貨物運送取扱事業を行う所謂運送会社である。本社所在地は四街道市で営業所が千葉市と成田市にあるが、実質的には千葉の営業所が本部機能をも兼ね備えている。現在、社員は30名。営業車両はトラクターやフォークリフトを除き20台が稼動している。主な取引先は、(株)ヤマタネ、(株)中央ジステック、福山通運(株)、近鉄航空(株)等大手物流会社である。

アイ・ティー・関東事業協同組合

齋藤成弘理事長

◎さいとう・あきひろ 昭和63年3月東京都立墨田工業高校卒業、運送会社を数社勤務の後、平成8年大栄陸運(株)入社。平成13年代表取締役。平成15年アイ・ティー・関東事業協同組合理事長。40歳。



IT技術で効率的な経営を実践

社長である齋藤成弘理

事長は、高校卒業後、運送会社数社経験の後、平成8年に当社に入社した。

当時あまり経営内容の良くなかった会社を、苦労されて経営の建て直しに成功し、平成13年に社長に就任した。まさにアメリカカンドリームのような経歴の持ち主である。ここ数年毎年増収を続けているとのこと、その

内容をお伺いしてみた。

その特徴は、IT技術の活用による効率的な事業経営に尽きる。PCソフトを十分に活用し、本部の営業、配車、経理事務を少数で処理する。そして貨物運送事業ではGPSによる車両位置管理システムを全車両に搭載し、効率的に車両を動かすばかりでなく、協同組合の情報システムの研究開発事業の成果として完成した求荷・求車システム、通称「ネットトラック」を活用することで車両の空荷状態

アイ・ティー・関東事業協同組合

所在地 千葉市花見川区横橋町858番1
代表者 齋藤 成弘
組合員数 18名 出資金 310万円
職員数 1名

を限りなくゼロに近づけている。しかし、合理化の話が多いといつても貨物の安全・確実輸送のためには、人間系に頼まざるを得ないので、毎月、ドライバーミーティングを励行し、乗務員の資質向上に努めている。さらに、全車にドライブレコーダー(運転状況を動画で見ることができるシステム)を装着し、安全運転と労務管理に役立てている。その他、地域貢献として年に一度周辺の道路清掃をボランティアで行っている。また、社内報を毎月発行しており、社員同士の情報の共有化、交流に役立っている。これらのIT機器の活用術、ソフト開発は殆ど齋藤社長が考案し、社員が実行している。IT技術は、活用してこそ価値があるものだが、ここまで活用できる経営者はなかなかいないと思う。

【齋藤理事長の横顔】

齋藤理事長に興味についてお伺いしたところ仕事以外ではゴルフとのことで、現在ラウンド90前後で回っているとのこと。懇親会も積極的に参加されるとのこと、進取の精神とバイタリティを感じられる青年経営者である。